令和５年３月６日
国立大学法人千葉大学

大学院医学研究院　磯野史朗教授の最終講義が行われました

令和５年３月をもって退職される大学院医学研究院 磯野史朗教授（麻酔科学）の最終講義が、２月２７日（月）に医学部附属病院ガーネットホールにて行われました。当日は、本学の教職員・学生、学外からの来場者に加え、オンライン参加者２５８名を含めた約４５０名が聴講しました。

磯野教授は千葉大学医学部を卒業後、千葉大学医学部附属病院麻酔科に入局し、千葉県救急医療センター等での勤務を経て、平成元年に帰局されました。以来３４年間にわたり、麻酔科学領域での睡眠時無呼吸研究を推進され、さまざまな領域の先生方と病態生理研究を行う等、麻酔科学の第一人者として、本学の教育・研究に貢献いただきました。

最終講義は、横手附属病院長よりご挨拶の後、演題『麻酔科医の活動　手術室から外へ』として、磯野教授が長年ご尽力されてきた「閉塞性睡眠時無呼吸症候群」の研究や、臨床現場でのご経験について語られました。後半の講義では、医学部学生に向けた情報共有シミュレーション実習や、周術期管理センターのご活動にも触れて、医療安全学やコミュニケーション医学の重要性を示されました。

講義終了後は、磯野教授と同じく昭和５９年に本学医学部を卒業した松原医学研究院長よりご挨拶があり、当時の思い出を振り返られました。その後、亥鼻柔道部（磯野教授顧問）主将の学生から謝辞があり、朗らかな人柄で学生に寄り添い続けた磯野教授の姿が伝えられました。また、附属病院医療安全管理部長をはじめとする８名の方々から、感謝の気持ちを込めて花束が手渡されました。

磯野教授は、令和５年４月より千葉大学真菌医学研究センター 呼吸器生体制御学寄附研究部門の特任教授として、引き続き本学にて研究活動を継続されます。

磯野教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。

最終講義の様子

最終講義の様子

松原医学研究院長のご挨拶

相馬医療安全管理部長より花束贈呈